



特別
ハ7
4023



持
ハ
4023



破吉利支丹

一 寺にあらん人の教までうと申
 大佛を造り乃に至りて。萬物此
 一仏に是則天地万物此佛然なる
 此佛子六百年の南蠻人
 世より衆生は海を渡りて
 其名は破世と云ふ也余
 其子氣を知らずて。論もなき

破吉利支丹



何海保・親遊・伝・さるび・な・事・五・癡
此・里・なり・と云・の・少・及・ぶ・破
て・云・で・う・と・と・地・の・主・母・して・五・去
百・物・を・地・お・一・給・ふ・な・く・ん・何・と・て
其・で・う・と・今・ま・ま・く・無・量・此・五・く
以・按・五・て・お・世・一・給・さ・る・や・天・地・の
ら・け・て・も・る・と・い・ま・三・世・乃・法・佛・を・智
く・流・生・漸・度・一・給・ふ・事・幾・百

萬・葉・也・い・ん・や・も・中・給・ふ・余・也
て・う・と・お・給・く・と・比・南・蠻・計・へ
お・世・も・と・云・の・何・を・授・と・せん
や・で・う・と・と・地・此・主・な・ら・ん・我・作
お・し・を・お・國・を・賜・佛・よ・ら・ん
と・地・開・闢・の・事・法・法・弘・法・ん
と・世・の・生・成・法・法・度・と・世・給・ふ・事
た・ら・ん・ゆ・り・なり・と・云・一・也・は

法言別傳

でうもそをたをけ佛也其上也と
きるも一と世もく下界に凡史
よまるといふのよかけられしものこと
是れ天の地乃に至るとせんや
たの事ありんや彼きりある
宗本元志如此一佛のものを
しと一仏の如く先をたてし
来り。魔法邪義を弘く科天

罰ぬらへるは海と掃たると、
身をばしきくかまが教を致ひ。今
故に於蒙昧此人多し。はむれ
よ。何れもや。其國までのゆえは
三世人佛也世乃本意を
成仏の正道也。故に直指人心。見性
成佛と云り。世もく世もく。難

及言文舟

昔行十二年の切替て。臘月八日。明皇見終ひて。法法真相乃理を悟里終ふ。支も里山紙中。法理紙從終終ひて。後拈花示衆。以時衆皆笑然。唯有迦葉尊者。破顏微笑。世言。吾有正法眼。花涅槃妙心。實相。相微妙法門。不立文字。教外別傳。付屬摩訶迦葉。迦葉小兒。

嫡く相承志く。日本に傳了。今に至りて。以心傳心。此旨。故守教なる中。總なるよ。きり。えん教。教又公。美なる乃見。と。念慮識情を增長。一。天地を成者。故遺立。輪廻乃業。故守之。是を成佛道と。わりの。里が。月と。ほつ。な。き。見解。子。て。は。玉。み。来。里。正法。小。對。せん。と。す。以。幸。鵬。燕。翅。故。争。ひ。月。堂。光。故。福。

波吉別文并

王統のこともなるん
 一日中少くも祇教の心を奉ずる也
 是れを以てうまを志しん故と云ゆべ及
 破して云ま日本を神也神玉に生
 成得て神明の宗めなるん
 此れなりなるん和光同塵を法縁の作
 八相成道を利物此終りといふなり然ハ
 先神と現しけむは祇教を奉ずる事ハ

人乃心哉やうけま此道も入給んぬ
 の方便なるん神と云佛と云唯是水
 波乃隔也中元玄如此一仏化現して人乃
 心も意もして無度し給ふまむ神祇教
 ひを奉るん也彼一仏も報ひを奉るなり
 前にも云ま祇教の奉ずる小く長下大長
 祇教其次第く物に役人百姓等も
 代下代下も祇教の奉ずる定まら法

也。是皆上一人故貴ひも教の儀なり。き
りて。是れ此教の如きと。上一人故中ひも
教人其下を用ひざれと。西理と云り
あり。や。か。や。乃。此儀故の。と。せんや。
一月中。ゆ。日月故。教ひ奉。教奉。儀の
也。是ハ世界乃。行。能。なり。是。と。で。と。
故。知。ざ。れ。故。と。云。由。少。及。破。く。云。支
人間の。故。と。陰。陽。と。招。中。と。云。西。大。合

志。て。神。と。ぬ。故。し。日。輪。ハ。陽。北。西。神。月。輪
と。陰。乃。此。神。也。陰。陽。と。も。あ。れ。て。は。か。ん
保。奉。あ。ん。や。我。未。が。招。中。あ。れ。ん。崇。め
て。と。く。何。き。と。云。は。陰。陽。故。陰。なり。と
云。ん。の。天。と。用。教。奉。あ。り。し。天。子。日。月
あり。世。家。故。照。し。給。ふ。は。恩。報。し
難。し。人。乃。子。兩。眼。を。以。て。自。己。故。照。ひ。の
是。則。日。月。の。光。を。受。教。子。あ。ら。ば。や

破言別支冊

日月を級一を教と論なりと云ふき
甲一ん眼根にぶざんや。正理と云ふ
これ事如是。滅は愚癡此なり也
一きるをえん宗と。熱して物此奇特
おれ事とさるび。是でうと乃名云か
と云て。後とえり事と作て。人故た
あうりや。及。破して云。奇特
なれ事とさるき。なると。魔王と云。教と

愈一は此此狐狸と奇特故なり。天帝
釈と。何飛羅とたふ。付戦ひ破きて
何修羅と八百四子の眷属と。了蓮
乃系此元子入て。がれと云へり。かや此
奇特と云ふ。一とせんや。支六通と
云ん。天眼通。天耳通。他心通。宿命通
花行通。漏盡通也。天眼通と云ふ。大千
世界此事と。一月は見る通也。天耳通と云

石吉舟文并
大だい千せん世界せかいの事ことと。是こゝ居い通となり。他た心しん
通とと云い。他た人じん廿にじゅう中ちゅう城じやう明めいと。知ち通と也や。宿しやく命めい
通とと云い。天てん上じやう天てん外がいまま。花はな行ぎやう自じ他た此こゝ
通と也や。けい入にゅう通と。天てん魔ま外がい道どうも。有あ通と也や。漏ろう落らく
通とと云い。天てん魔ま外がい乃なり此こゝ及およ小せう知ち。小せう知ちと云い。乃なり此こゝ及およ小せう知ち。
悩なうと断だん一いつ。是こゝ乃なり此こゝ佛ぶつ智ちなり。結けつ心しん佛ぶつ
乃なり六りく通と也や。奇き特とくあり。右みぎ乃なり正しやう法ぽうは。奇き特とくあり。

なり。と云へ。此こゝ法ぽうと知ち。人ひとは。天てん魔ま外がい
乃なり小せう知ちたぶらうと云へ。支し佛ぶつ此こゝ六りく通と也や
之こゝを眼まなこも交まじりて不得ず。耳みみも色しき法ぽうも
て不得ず。鼻はなも香かう法ぽうも。不得ず。舌しても
味あじも。なめて不得ず。身みも觸ふて。さ。さ。ら。に
法ぽうも。在ある。万まん法ぽうも。さ。さ。ら。に。法ぽうも。在ある。万まん法ぽうも。
乃なり此こゝ後ご移うつつ。心しん虚こゝろ空くう同どう神しんなり。
乃なり六りく通と無む碍がい乃なり道どう人にんと云い。又また無む相さう量りやう。

念の人にもく^{ひと}里^ま。子^こに云^い。三世^{さんぜ}此^{こゝ}法^{はふ}佛^{ぶつ}成^{じやう}
伏^{くつ}養^{やう}せんよを^を一^{いつ}箇^こ無^む心^{しん}の^の人^{にん}成^{じやう}供^{くわう}
養^{やう}せんよを^をと^とと^と後^ご法^{はふ}入^に里^ま成^{じやう}供^{くわう}
行^{ぎやう}乃^の人^{にん}を^をは^は道^{だう}と^とま^まふ^ふなる^る。又^{また}よ^よ奇^き
物^{ぶつ}と^と同^{どう}於^お事^じか^か

一^{いつ}きりある^るん^ん此^{こゝ}教^{きやう}も^も畜^{ちく}類^{るい}も^も實^{じつ}乃^の具^ぐ
か^か。ま^まら^らは^はる^るは^は乃^の死^しす^すれ^れ時^{とき}具^ぐと^と共^{とも}い^い
死^しも^も人^{にん}間^{かん}の^のま^まで^でう^うも^もよ^よる^るも^も其^まれ^れを^を

此^{こゝ}法^{はふ}た^たま^まふ^ふ故^{ゆゑ}よ^よは^は乃^の死^しある^るま^まと^とは^は靈^{りやう}
死^しを^をい^いく^く今^{いま}生^{せい}も^も善^{ぜん}悪^{あく}乃^の業^{ごふ}よ^よの^の中^{ちゆう}
善^{ぜん}業^{ごふ}と^と交^{かう}善^{ぜん}業^{ごふ}の^の者^{もの}と^とん^ん。さ^さら^らに^にさ^さら^ら
と^とく^く樂^{らく}も^もた^たる^るぬ^ぬ世^せ界^{かい}と^と他^た垂^たく^く。是^{こゝ}へ^へ
く^く一^{いつ}法^{はふ}も^も悪^{あく}業^{ごふ}の^の者^{もの}と^とん^ん。い^いぬ^ぬ魚^{ぎよ}成^{じやう}如^{じゆ}
こ^こそ^そ善^{ぜん}界^{かい}と^と他^た里^り置^{おき}く^く。是^{こゝ}へ^へ落^{らく}す^する^る言^{ごん}
と^と交^{かう}へ^へ法^{はふ}よ^よと^と云^いゆ^ゆ。及^{およ}び^び破^はす^する^る云^い
畜^{ちく}類^{るい}と^と人^{にん}間^{かん}の^の靈^{りやう}と^と他^たり^り分^{ぶん}法^{はふ}よ^よか^から^らん

法言卷之五

何れも人間の業は必ず地獄へ落おちり
よ落おちし給ふや如く人界と地獄へ落おちし
給ふ幸を備いそふまでその業也釈迦しやも
亦世乃時天竺てんてくよ介け乃宗しゆ繁昌はんしやうせり彼
亦智ち恵え廣くわう大だい母ぼして種しゆく此見こゝ証しやうと
況けい幸しやう佛ぶつ此法こゝは似にたりと云いふも自じ願げん
ふのふ子しして言い説せつののもなり。數すう論ろん外がいは
よ二十にじゅう又また諦たいと立たてて世せ乃の乃の法ほふ法ほふを對たい

せり其その中ちゆう一いつ法ほふ眞しん諦たいと名なく。天てん地ち未み分ぶんき
され先さきの言い凶きやう禍わざはひ福ふく也や不ふ見けん見けん也や是こゝは
色しき及およ事じなり。名な字じ法ほふ對たいして一いつと云いふ天
強きやうて眞しん諦たいと号ごうす。是こゝハ常じやう住ぢゆう也や
坐ざ位い異い滅めつににううされす。第だい二十にじゅう又また諦たい
と神しん我が諦たいと名なけ。是こゝは凡ぼん丈じやう心しんと名な
け。魂たましいといいつりりののなり。是こゝは常じやう住ぢゆう也や
と云いふ。其その間かん此こゝ二十にじゅう三さん諦たいと名なす。

法華經卷第十

香山福壽等の法の轉變の相也
此の爲に法と云ふ神我長短方法の
相と起せし眞諦轉じて其形と法を
然則世間有る爲に轉變すれ奉
神我乃情と生すれよのまじり神我一
切乃情と生せしめて眞諦よ飯まれば
有る爲に轉變永く依て是爲に樂し自
在なる身を廣減すまじりと神我を

滅せし喻て家らやられ其自らも
如しといふ甲が乙の见解及び極
小理を説といふもの故に如來は對
するに由は自性を悟りて不後仏の子
となすまじり唯今此のまじりて全
外道此見よたも不及して正法ありと
よふ事。然るに井此中の陸也
一世の四十九年甚深此法は況況と

只とて。此可一字不脱と。経路も也。
是則。立よ。佛性。如。一めん。為此。教也。
一字不脱。乃。意。思量。此。及。妙。何。く。は。
去。修。多。羅。乃。教。之。月。故。は。と。指。之。
後。所。亦。古。人。心。法。故。示。之。云。之。心。と。以。て。
色。束。之。く。ら。び。無。心。と。以。て。く。色。得。今。成。
言。頃。故。以。て。然。へ。く。ら。び。寂。契。と。以。て。通。
之。へ。く。ら。び。と。如。是。教。事。の。と。云。よ。言。脱。

此及妙。の。あ。ら。び。七。佛。也。世。是。同。一。毘。婆。尸。
佛。尸。棄。佛。毘。舍。浮。佛。拘。留。孫。佛。拘。那。含。
佛。迦。葉。佛。然。迦。牟。尼。佛。是。以。七。佛。と。
之。り。は。一。佛。此。法。色。黄。子。万。歳。な。ら。ん。や。
况。七。佛。此。法。其。限。故。不。知。又。何。称。絶。如。乘。此。
也。世。を。十。劫。の。の。賢。是。比。此。と。申。を。於。
何。称。絶。を。梵。語。漢。依。は。無。量。壽。と。
之。り。觀。無。量。壽。の。云。無。量。壽。佛。

破告別支丹

の身みを百ひやく子しの億おく夜摩天やまてん此こ如ごと。閻浮えんぷ
担たん金ごん此こ久くなる。眉み間けん白びやく毫ごう右う旋せん婉えん轉てん
すれ幸しゆ。須しよ弥み山さん此こ如ごと。佛ぶつ眼がん如ごと。大だい
海かい水すい青せい白びやく分明めいめい也なり。身みの法りやく此こ光かう的てき紙し演えん
おす。率しゆ須しよ弥み山さん乃ごと如ごと。彼かの佛ぶつ此こ法ほう光かうの
百ひやく億おく三千さんぜん大千だいせん世界せかい此こ如ごと。文ぶん分ぶん
のかり。海かい在ざい六りく十じゆ万まん億おく那な由ゆ他た恒こう河が沙しゃ
中ちゆう旬じゆん眉み間けん白びやく毫ごう之し五ご須しよ弥み山さん海かい眼がん八はち大だい

海かい有ありとる。是こより大だいきかた佛ぶつあり。や
大だい子し世界せかい也なり。何なに故こ改か乃ごと。神しん中ちゆう又また比ひ量りやう也なり
心しん九く牛ぎゆうの一いつ毛もう也なり。不ず可べ及じやく。清せい於お八はち上じやう之し
天てんと成なり濁じやく於お下か下か地ちと成なり。陰えん陽やうと
分ぶんま。天てんと陽やうと司しり地ちと陰えんと神しんと
世界せかいひらけ始はじめり。幸しゆ起おこりて天てん
故こ父ふと。地ちを母ぼと。陰えん陽やう合あして。森しん
羅ら萬まん像ざう也なり。生せい也なり。是こ則すなはち一いつ佛ぶつ也なり。此こ法ほう也なり。

一佛以存法よ大人也。大力量此人也。
之大力量此人以題して。金門の項よ目
提脚。踊龍香水海。低頭俯視。四得。天
法。經法。誦。如是。沙法。若り。佛性法界よ
普して一切。衆生。此。自。人。と。成。去。万。一。切
衆生。悉。有。佛性。と。説。終。也。喻。天
上の一月。乃。方。より。後。終。り。如。し。大海
の。一。月。の。滴。の。衆。よ。と。一。月。の。衆。よ。

似。心。法。無。形。よ。し。て。妙。用。と。現。以。眼
よ。も。て。八。物。法。也。身。よ。も。て。八。色。法。也。
鼻。よ。も。て。香。法。也。舌。よ。も。て。八。物。と
云。自。よ。有。て。八。物。法。取。脚。よ。有。て。八
歩。と。行。心。佛。と。終。終。時。と。佛。也。心
佛。よ。も。て。八。物。法。也。支。なる。と。去。ん。自。己。此
佛。性。法。也。知。去。め。ん。為。此。方。便。よ。或。時。と。
本。来。而。自。と。み。付。或。時。と。中。分。此

えちり 回垢と云。大徳先と云。大通智勝佛と云。
大日如来師。觀音地藏菩薩なり。異
名。教多し。一と云。二佛なり。
法よ二法あり。法は多し。觀音
時。松風流あり。妙音と成。方は一如と
成。我時を。是の本國去。則成。仏と云。り。
少も。是。成佛。より。奉。以。復。よ。も。と。不
知。彼。を。そ。ま。ん。大。せ。よ。と。き。り。一。が。教。と。

たつと 一と云。奉。真目。以。爲。て。明珠と
すれよ。一と云。なり。ん。ん。

一佛を。是。大。醫。王。なり。中。元。生。速。倒。之。
病。以。治。一。法。ん。に。擔。也。元。生。信。志。
て。是。を。用。於。時。を。煩。惱。業。障。也。病。治。
之。以。と。云。奉。か。り。一。と。云。ん。凡。夫。生。倒。之。
病。以。不。知。一。と。云。奉。以。用。於。奉。之。一。
病。乃。治。之。乃。治。之。乃。治。之。乃。治。之。乃。治。之。

石言抄之冊
身は實と留れが故よ。日夜少とあや
まらん痛也。貪欲は悪。愚痴は毒。三毒乃
念おこるし未中。親と愛は事。只身
と好ぶ。一念はえとと。び三毒と種と
して。八百四十の煩惱の病は。床は伏
と。心も。ば。理と。愛よ。志と。び。く。て。却
て。痛と。愛す。れ。ゆ。海は。凡。ま。此。定
業。一生乃。苦も。是也。終ら。死。若。則。た。

せうぶんえんきう ちりぢやく
常は。今生よ。執着。一。た。執。妄念。悪鬼
と。成。競。来。て。責。苦。は。れ。事。又。よ。よ
計。と。か。一。死。者。の。心。之。途。此。川。と。云。ゆ
是。此。時。よ。は。く。現。し。ま。れ。結。む。凡。ま。ハ
生。少。と。苦。も。死。ゆ。も。悲。心。事。必。是。也。あ。ま。こ
背。顛。倒。乃。心。より。他。心。も。亦。也。顛。倒。と
云。ハ。一。よ。ハ。苦。は。好。と。て。樂。と。く。て。了。ま。る。ん
樂。は。あ。ら。う。ん。ん。なり。二。よ。ハ。無。常。此。理

とかどしとて。ば世界よ執悪し。常位
 此念故わのしとん也。三よを十箇八苦を
 我故受。於惱れきけふよ。法かぐれな
 けの身とふん也。阿子ハば身此不淨
 なる事とかも。一々。清淨なることと
 心也如是あやま中。素まると。せれく。
 身乃不淨なる事と。又よ知へく。び。入
 脱六腑。毛此穴より。おの汗。大小便。耳あり。

鼻あり。一とて。清き事あり。我亦愛
 せはば身此かつり。刃ぞんむ。まへうら
 ば理故。あらしめん。ため。不淨觀と立
 給へり。不淨觀と他えん人。を。屍此多
 漬乃なり。任せうと。なり。毛偏よ。
 真肉よ執悪せ。されとの。教なり。は
 離新へ。心。生。む。若。樂。あり。ん
 滅。を。ま。む。得。り。れ。心。と。心。と

波吉別入丹

あべー。まゝ。佛と。衆生との。替り。身。
多と。氷と。此と。一。煩惱。此念。淨。然
故。水の。氷と。如。また。入。第一。念。消滅。
して。さ。り。り。な。き。氷。氷。解。て。あ。と
如。また。入。り。ま。ま。三。界。
唯一。心。外。無。別。法。心。佛。及。衆。生。是。三。
無。差。別。と。説。終。は。一。心。八。何。者。ぞ。き。
耳。も。え。ん。金。も。知。事。か。り。

一。近。年。来。本。教。を。考。へ。ん。者。又。も。夫。を。其。恐。
き。も。た。く。私。を。此。の。化。者。と。作。立。神。祇。
佛。國。城。滅。却。し。は。此。故。南。響。入。ぬ。べ。し。
孫。を。ひ。く。候。く。虚。言。志。く。人。は。た。た。が。ら。
か。ま。は。ま。此。盜。人。坊。主。の。心。して。い。ぬ。ま。え。
た。り。ま。ん。と。号。し。ぬ。多。人。を。い。は。し。
落。し。此。國。の。佛。を。仏。よ。あ。ら。じ。日。月。と。
名。を。神。明。を。な。す。ゆ。か。ら。む。と。云。

そのことゝあるおとし
其科甚まふして。天罰。佛罰。神罰。
人罰。一として。死すべき皆くはる。一殺。
され彼亦よ。子者。此科胸。一満。
此方。身。子。百人。と云。殺。故。云。く。は。て。
ひぬ。是。魔法。此。殺。中。亦。也。云。依。よ。中。此。
神罰。罰。よ。何。く。は。彼。未。天。道。故。採。先。
有。中。佛。と。接。へ。無。殺。人。故。地。獄。へ。入。方。
無。逆。無。辱。は。自。業。自。滅。至。極。せ。為。外。眼。

せんかの
前也彼をそまんと。まよ乃佛。子。おん
子也一人。や。あ。が。一。終。ふ。とも。天。道。此。た。
有。ま。よ。一。数。多。の。む。そ。ま。ん。は。五。五。
きり。あ。ん。宗。殺。故。不。知。死。罪。子。あ。よ。と。
一。も。何。れ。た。つ。り。あ。わ。彼。未。身。度。
事。終。も。天。后。の。あ。ん。限。り。を。皆。く。
自。滅。せん。事。疑。ひ。か。一。は。理。氏。知。
を。一。く。

法言別冊

終

七

願以此功德 普及於一切
我等眾生 皆共成佛道

寬文二年

中書右丞相

增六九



